

一主婦からの新発田市政通

皆様これで良いですか

発行者 青木三枝子（市政を考える会）

新発田市御幸町 3-1-21

TEL 0254-26-8334

平成 26 年 5 月 12 日 第 21 号

21 号

1 本当にこのままでよいのでしょうか

4 月 25 日 NHK の「廃炉への道」という福島第一原発廃炉についての番組がありました。作業員が集まらず、廃炉作業から撤退する下請け業者が増えているという内容でした。実際に働く技術者や作業員一人一人の被爆線量が限界になり働けなくなったという問題もありますが、東京電力を頂点としたピラミッド状の重層下請け構造となっている為、下請けに支払われる賃金が減額され、劣悪な条件下での作業に見合った賃金が支払われないことが撤退の大きな原因であると述べていました。私は、原発事故当初から、いつの日か誰も廃炉作業に従事しなくなる日が来るのではないかと心配していました。そのことが現実になりつつあると感じました。ロシアでは国が中心になって専門の作業員を確保する為に多額の予算を使っているとの事でした。作業員は廃炉作業に従事する事に誇りを持っていると述べていた事が印象的でした。

日本は国の借金が 1100 兆円もある中で、アベノミクスの元に全国津々浦々までの公共事業に莫大なお金を使っています。今すべき事はオリンピックでもなく、公共事業のためのバラマキでもなく、福島原発の処理を最優先にすべきと考えます。新発田市も、そのアベノミクスによる補助金を当てにして、箱物に税金を使っています。

国が破綻すると共に、命と引き換えの廃炉作業に誰も従事する人がいなくなる日が来ることを想像すると恐ろしくなります。

2 駅前での公共交通バス利用について

駅前で通信 19 号を配っていた際、石喜に行きたいという外国の男性にバス利用の方法を教えてあげて欲しいと、通学時の高校生に頼まれました。彼は日本語も英語もわからず、ただ石喜という事だけがわかるという状態でした。私自身、利用方法が全くわからず、駅構内の駅員さんに聞きましたがわかりませんでした。丁度、コミュニティバスが駅前に来ましたので、その運転手さんに教えてもらい、川東行きバス停があると思われる方向を指差し彼に知らせました。しばらくして彼の姿が見えなくなったので、バスに乗車できたと思っていましたが、結局、彼はタクシーを利用しようとしていました。私は間違った場所を教えたようでした。通信配りを優先するあまり、最後まで彼に付き添い、バスに乗車させてあげられなかった自分を恥じました。タクシーに乗った彼に何度も頭をさげ手を振る私に、彼も私の気持ちを察してくれたのか、笑顔で応えてくれました。

通信配りの帰路、信号待ちの間に駅全体を眺めた時、やっと分かりました。石喜に行くには、タクシー乗り場とほぼ同様の場所に②番の川東行きのバス停があった事が、観光推進や公共交通バスに

補助金を使うのであれば、何時でも誰でもわかる新発田市全体の公共交通バス案内板やパンフレット、バスターミナルが必要と考えます。

3 坪川氏の思いを現在の場所で引き継ぐ為に

4 月 24 日に図書館において坪川洵平氏についての講演会がありました。その講演において、坪川氏が大名屋敷のあった現在、市民文化会館や露谷虹路記念館のある場所を如何に大切に思い、図書館をこの地に建てられたのかを改めて知る機会となりました。坪川氏の意志さえ継げば場所はいつでもよいという行政です。しかし、入る事を許されなかった大名屋敷の庭に落ちたどんぐりの実が欲しくてたまらなかったという幼き日の坪川氏の想いを思うと、私には場所はいつでもよいとは思えません。

一方、講演会の後、歴史資料が保存されている部屋を見せて頂きました。その資料の保存状態は劣悪なものに感じました。このような状態で本当に大切な歴史資料が新発田市に保存できるのかと素人の私が見ても心配になりました。大切な歴史資料をまとめ、保存する為の技術をもった人材が必要であると思います。新発田市に人材がないのであれば外から招く方法もあります。今のような状態では新しい図書館の運営も危ぶまれます。

市は現図書館を本館といいつつも歴史資料館にしようとしています。そうであれば新発田市の図書館の礎をつくられた坪川氏に関する資料の全てをまとめ、一括して現図書館に保存してはどうでしょう。敗訴した裁判に対する控訴の前に、屋根からの落雪防止の為の根本的安全対策を早急にとる必要があります。そして、一般図書館としての機能も残しながら、坪川氏の頌徳碑のあるこの場所で、多くの方に坪川氏について学び知って頂けたらと思います。将来、坪川氏の想いを引き継ぐ人材が新発田市から出るよう願います。

4 税金の使い方についての疑問

平成 26 年度予算一般会計予算は約 441 億円、前年度比 9 千万円増、特別会計予算は約 276 億円、前年度比約 13 億 4 千万円の増です。市税は減少している現状のなか、予算は増となり補助金依存の予算となっています。新庁舎を平成 27 年度中に建設することにしていけば、一般会計予算は、この増額ではすまされなかったと考えます。新庁舎建設期間を延長させ、多年度に建設費用を分散させたのです。あれだけ 27 年度中に建設するとして、市民の声に耳を傾けなかった二階堂市長です。各地区に出向き、誇らしげに踊りを踊っている市長には恥ずかしという気持ちなど無いのでしようね。

教育に力を入れるという市長ですが、実際は、人ではなく、教育関係の箱物建設に力を入れる事だと思えます。今年度、中学校英語指導助手事業の為に 240 万円、学力向上モデル中学校 1 校に 183 万円と広報にありました。この予算の内訳は新発田市の中学校 10 校、小学校 22 校に対し 2 名増員の人件費です。今年度必要のないと思われる交通量調査費用 700 万円以上の予算と比較して、これが本当に教育に力を入れる事なのかと疑問に思います。